

捕獲等事業評価シート
様式

(沖縄県 環境部自然保護課)

評価シート（イノシシ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	慶良間諸島全域（渡嘉敷村及び座間味村）
事業主体	沖縄県自然保護課
事業実施期間	令和7年4月25日～令和8年3月13日
捕獲手法	誘引狙撃、箱わな、囲いわな、くくりわな
事業メニュー	②指定管理鳥獣捕獲等事業
事業費	9,799,031 円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 100 頭	合計 62 頭 （内訳） 誘引狙撃：54 頭 箱わな：2 頭 囲いわな：3 頭 簡易囲いわな：2 頭 くくりわな：1 頭	捕獲目標の達成率は 62%であった。目標が達成できなかった理由として、渡嘉敷島において、従来の対策効果等により個体数が例年と比較して少なかったと推察される。
捕獲作業量	出没地点や時間、群れの構成等に応じて捕獲手法を選択しているため、予定は立てていない。	誘引狙撃：1,426 時間 箱わな：7 台日 囲いわな：13 台日 簡易囲いわな：11 台日 くくりわな：16 台日	出没地点や時間、群れの構成等に応じて適切な捕獲手法を選択し、効率的に捕獲できた。
効率的な捕獲	誘引狙撃：0.07 頭/時間 箱わな：0.22 頭/台日 囲いわな：0.50 頭/台日 簡易囲いわな：0 頭/台日 くくりわな：0.06 頭/台日 （※）昨年度事業の捕獲効率等を記載。	誘引狙撃：0.04 頭/時間 箱わな：0.29 頭/台日 囲いわな：0.23 頭/台日 簡易囲いわな：0.18 頭/台日 くくりわな：0.06 頭/台日	出没地点や時間、群れの構成等に応じて適切な捕獲手法を選択し、効率的に捕獲できた。
事業に要した人員数	180 人日	181 人日	予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.343 頭であった。
安全管理体制	安全管理計画を作成し、安全管理を行う。	計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	計画通り、安全に事業は遂行された。

捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業 実施計画及に記載したと おり、埋設を基本とする。	計画に沿って作業を行 った。獣による掘り起 こし等は発生しなかつ た。	計画通りに事業は遂行 された。
環境への影響への配 慮	・非鉛製銃弾を使用	・非鉛製銃弾を使用	計画通りに事業は遂行 された。
捕獲個体の属性	・オス 51 頭、メス 49 頭、 不明 2 頭 ・成獣 37 頭、幼獣 65 頭 ※成獣はオス 15 頭、メス 22 頭 (※) 昨年度事業の結果 を記載。	・オス 37 頭、メス 25 頭 ・成獣 45 頭、幼獣 17 頭 ※成獣はオス 27 頭、メ ス 18 頭	成獣の性比（オスの割 合）は 41～60%の範囲 で推移している。選択 的な捕獲が可能である 誘引狙撃においては、 成獣メス→成獣オス→ 幼獣の順に優先順位を つけて捕獲を行ってお り、成獣が多く捕獲さ れた。

■ 添付図面

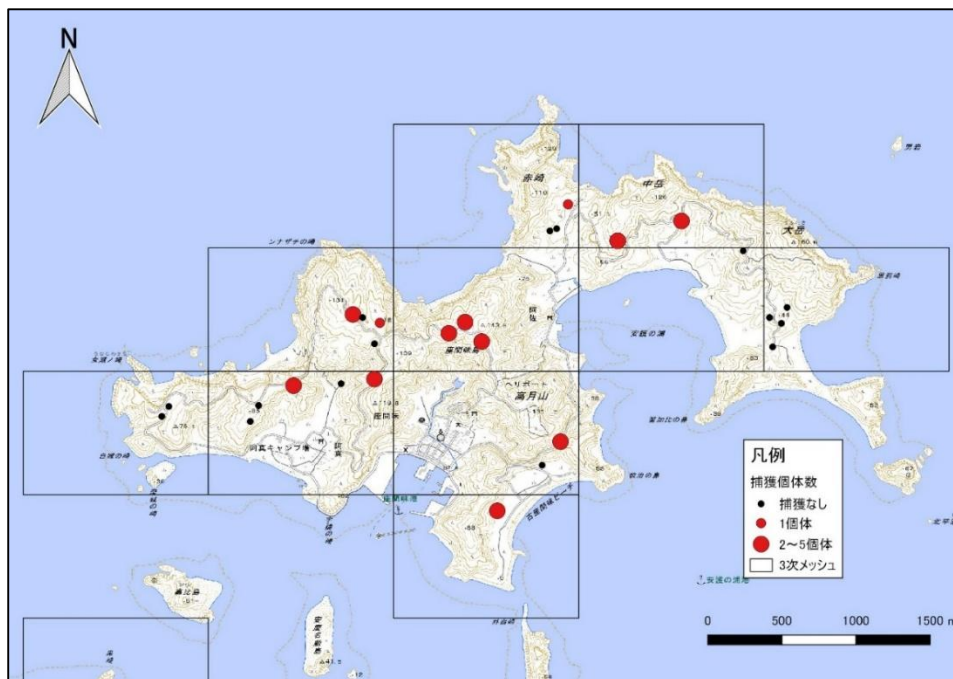


図1 誘引狙撃による捕獲地点（座間味島）

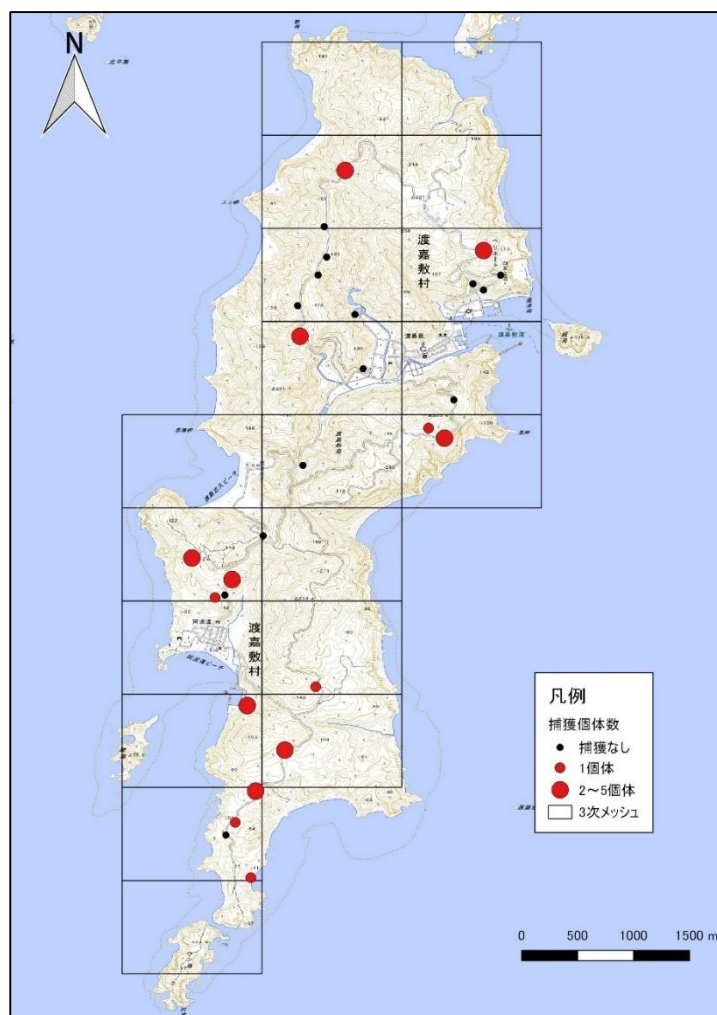


図2 誘引狙撃による捕獲地点（渡嘉敷島）



図3 箱わなによる捕獲地点（座間味島）

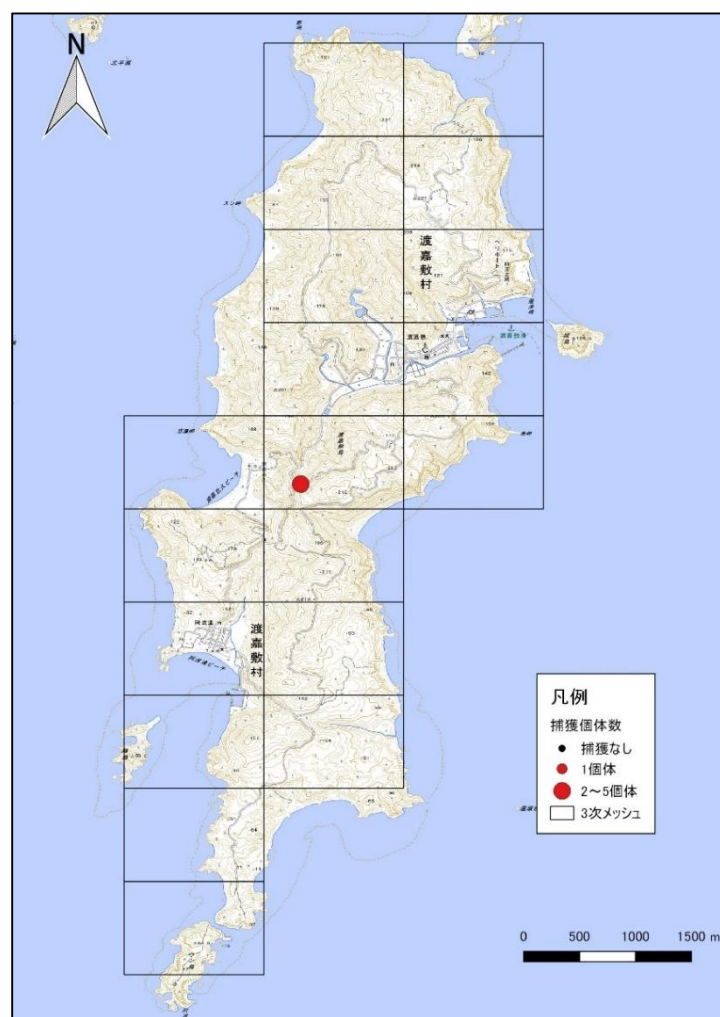


図4 囲いわなによる捕獲地点（渡嘉敷島）

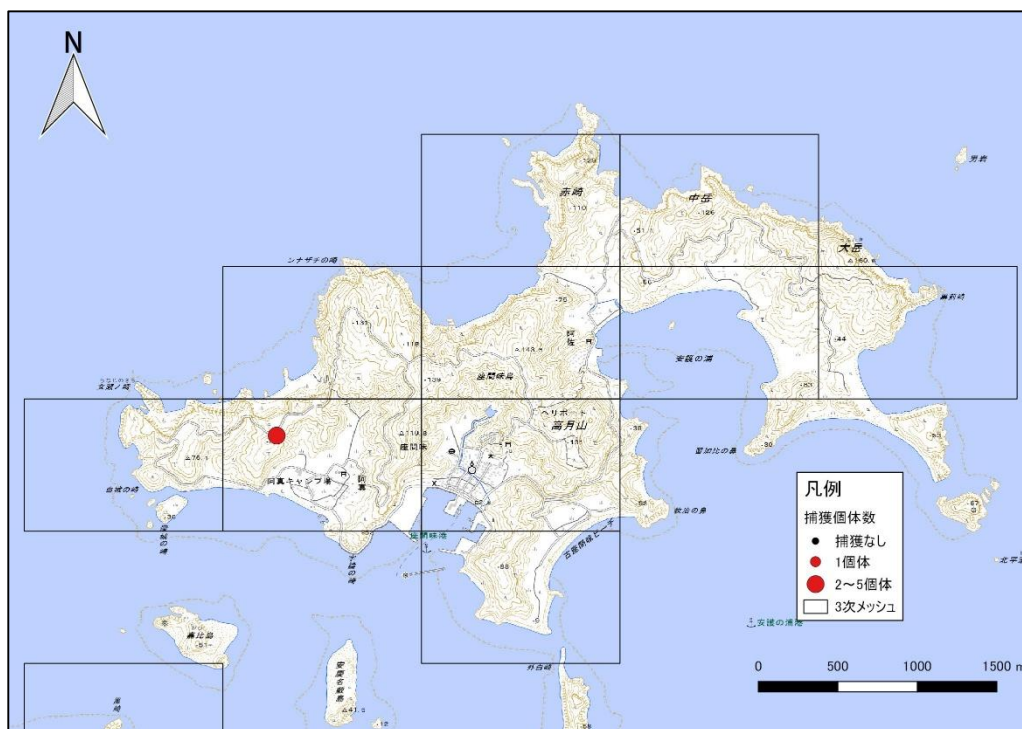


図5 簡易囲いわなによる捕獲地点（座間味島）

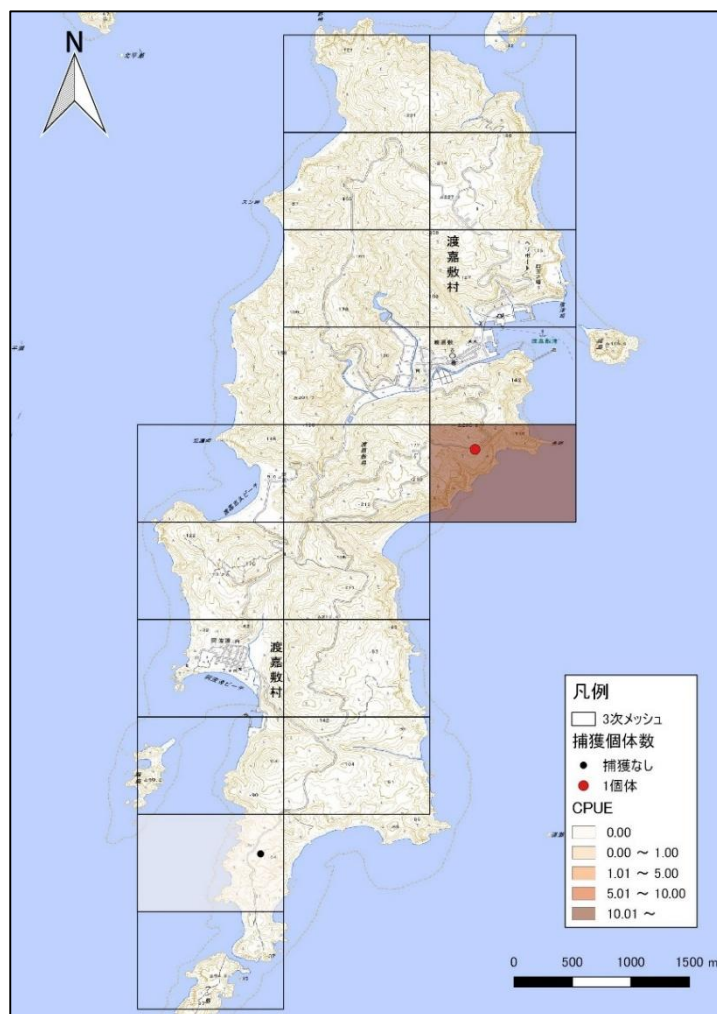


図6 くくりわなによる捕獲地点（渡嘉敷島）

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

慶良間諸島全域（渡嘉敷村及び座間味村）

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	センサーカメラによる撮影頻度（事業開始時：5月） ・座間味島 10.4回/100日 ・慶留間島 0.0回/100日 ・阿嘉島 0.4回/100日 ・安室島 0.0回/100日 ・渡嘉敷島 16.4回/100日
事業実施後もしくは事業終盤・後半	センサーカメラによる撮影頻度（事業終盤：2月） ・座間味島 3.5回/100日 ・慶留間島 0.0回/100日 ・阿嘉島 1.3回/100日 ・安室島 0.0回/100日 ・渡嘉敷島 9.1回/100日
評価	座間味島、渡嘉敷島ではイノシシの撮影頻度は低下している。阿嘉島では低い値で推移しており、慶留間島、安室島では撮影されなかった。渡嘉敷島においては、他の島と比べると高い値で推移しており、生息密度が高いと考えられる。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	（令和6年度調査：渡嘉敷村、座間味村（ウミガメ類のみ）） ・ホルストガエル 夏季・冬季の2回の調査で、成体6個体、幼生125個体を確認。 ・オキナワイボイモリ 夏季・冬季の2回の調査で、成体2個体を確認。 ・その他 ケラマトカゲモドキ、サワガニ類については、調査を開始した令和3年度から継続的に確認されており、減少傾向はみられていない。リュウキュウヤマガメについては確認されなかった。 イノシシの胃内容物からは希少種は確認されなかったが、渡嘉敷島及び阿嘉島における踏査でウミガメ類の卵の食害を確認した。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	（令和7年度調査：渡嘉敷村） ・ホルストガエル 夏季・冬季の2回の調査で、成体14個体、幼体1個体、幼生61個体を確認。 ・オキナワイボイモリ 夏季・冬季の2回の調査で、成体3個体を確認。 ・その他 ケラマトカゲモドキ、サワガニ類については、調査を開始した令和3年度から継続的に確認されており、減少傾向はみられていない（令和7年度はサワガニ類の調査は未実施）。リュウキュウヤマガメについては確認されなかった。 イノシシの胃内容物からは希少種は確認されなかったが、渡嘉敷島における踏査でウミガメ類の卵の食害を確認した。
評価	これらの希少種については、イノシシ侵入前に定量的に調査された詳細な記録がないため、侵入前の状況と比較はできないが、種によっては、繁殖に利用される可能性のある水辺環境の周辺でイノシシによる掘り返し跡が多く確認されていることから、イノシシによる影響を受けている可能性が高いと考えられる。 今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を確認する。

■ 添付図面

表1 自動撮影調査結果（座間味島）

項目	年	月	地点名										合計
			Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	Z7	Z8	Z9	Z10	
イノシシ 撮影頻度 (回/100日)	R7	4月	0.0	0.0	10.0	13.3	0.0	56.7	20.0	0.0	10.0	0.0	11.0
		5月	9.7	3.2	35.5	3.2	0.0	32.3	3.2	0.0	9.7	0.0	10.4
		6月	10.0	0.0	120.0	0.0	6.7	3.3	0.0	0.0	6.7	0.0	16.3
		7月	0.0	0.0	32.3	-	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	4.2
		8月	-	0.0	25.8	-	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
		9月	-	-	20.0	-	33.3	3.3	0.0	3.3	10.0	0.0	10.0
		10月	-	-	38.7	-	0.0	6.5	32.3	0.0	4.9	0.0	12.1
		11月	-	-	21.4	-	26.7	3.3	0.0	0.0	-	0.0	8.1
		12月	0.0	0.0	59.0	0.0	6.5	0.0	0.0	6.5	11.7	12.9	7.1
	R8	1月	22.6	3.2	29.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	25.8	0.0	8.4
		2月	0.0	0.0	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	0.0	3.5
	合計		8.2	1.1	37.5	4.1	8.2	10.1	5.4	0.9	9.0	1.4	9.1

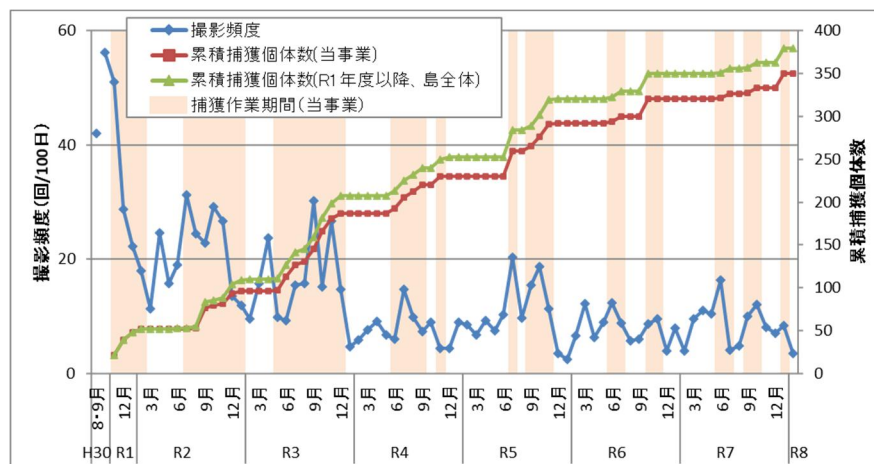


図7 撮影頻度と累計捕獲個体数の推移（座間味島）

表2 自動撮影調査結果（渡嘉敷島）

項目	年	月	地点名																		合計	
			T1	T2	T3	T4	T5	T6	T7	T8	T9	T10	T11	T12	T13	T14	T15	T16	T17	T18		T19
イノシシ 撮影頻度 (回/100日)	R7	4月	6.7	0.0	73.3	90.0	250.0	80.0	0.0	10.0	156.7	13.3	16.7	0.0	16.7	0.0	40.0	0.0	10.0	13.3	20.0	41.9
		5月	32.3	0.0	3.2	0.0	77.4	35.5	0.0	6.5	61.3	0.0	29.0	0.0	8.9	0.0	6.5	0.0	0.0	3.2	35.5	16.4
		6月	16.7	0.0	3.3	10.0	103.3	23.3	0.0	23.3	126.7	4.1	10.0	6.8	20.5	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	13.3	20.0
		7月	3.2	3.2	0.0	9.7	183.9	45.2	0.0	11.6	83.9	3.2	19.4	-	29.0	0.0	12.9	0.0	0.0	-	3.2	24.4
		8月	3.2	0.0	3.2	9.7	251.6	9.7	0.0	-	112.9	0.0	22.6	-	16.1	0.0	6.5	3.2	0.0	-	6.5	27.8
		9月	0.0	0.0	6.7	20.0	183.3	26.7	0.0	-	430.0	6.7	93.3	-	6.7	0.0	10.0	0.0	0.0	-	6.7	49.4
		10月	0.0	0.0	29.0	71.0	19.4	25.8	0.0	-	200.0	0.0	216.1	-	58.1	0.0	25.8	0.0	0.0	-	25.8	41.9
		11月	0.0	0.0	46.7	196.7	73.3	3.3	6.7	-	20.0	3.3	150.0	-	16.7	0.0	46.7	0.0	0.0	-	36.7	37.5
		12月	0.0	0.0	22.6	58.1	77.4	0.0	0.0	-	67.7	3.2	22.6	-	16.1	0.0	9.7	0.0	0.0	-	41.9	20.0
	R8	1月	0.0	0.0	9.7	6.5	9.7	19.4	6.5	3.8	48.4	4.4	3.2	0.0	3.2	6.5	0.0	3.2	3.2	11.3	22.6	8.6
		2月	0.0	0.0	0.0	5.4	5.7	5.4	0.0	27.1	57.4	-	5.4	0.0	5.4	19.3	0.0	0.0	6.0	12.9	12.1	9.1
		合計	5.9	0.3	18.5	44.4	116.2	25.6	1.2	13.1	126.1	4.0	55.2	1.5	19.0	1.6	15.2	0.6	1.5	8.8	20.8	27.3

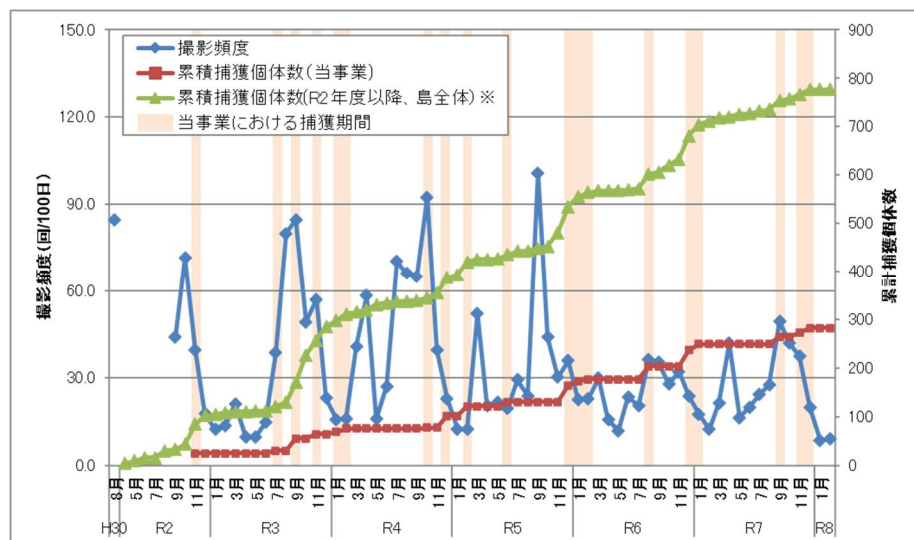


図8 撮影頻度と累計捕獲個体数の推移（渡嘉敷島）

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：目標達成率は62%と目標を達成できなかった。
	改善点：令和7年度のモニタリング調査において発覚したイノシシの撮影頻度が高い地域での捕獲を重点的に行う。また、引き続き、各島に合った捕獲手法について、海外の先行事例等を踏まえつつ具体的な検討を行いながら、捕獲の強化を図る。
【実施期間】	評価：十分な期間を確保できた。
	改善点：引き続き、事業の早期着手に努めるとともに、円滑に事業が実施できるよう、適切な事業設計を行う。
【実施位置】	評価：慶良間諸島の中でも生息数が多く、農作物や生態系への被害が大きい渡嘉敷島と座間味島において捕獲を実施し、渡嘉敷島で33頭、座間味島で29頭捕獲した。なお、効果的捕獲促進事業において、阿嘉島でイノシシに特化した給餌方法の検討・検証を行い、11頭捕獲した。
	改善点：引き続き、モニタリング調査等において各島の生息状況を把握しつつ、地元や有識者と協議の上、捕獲作業を実施する。
【捕獲手法】	評価：誘引狙撃とわなによる捕獲を実施した。捕獲実績は、誘引狙撃54頭、囲いわな3頭、簡易囲いわな2頭、箱わな2頭、くくりわな1頭であった。
	改善点：引き続き、島毎の状況を踏まえながら、効率的・効果的な捕獲が実施できるよう、効果的な捕獲手法の検討に取り組む。また、警戒心が高く日没後の時間帯にしか出没しない個体が発生しているため、費用対効果の向上が期待される夜間銃猟の導入に向け、その運用や手技の詳細について検討を行う。
【捕獲コスト】	評価：座間味村では、継続的な捕獲により個体数が減少し、警戒心が高く捕獲が困難な個体が残っている。そのため、捕獲労力が上昇することで捕獲コストも上昇している。渡嘉敷村においても、アクセス路が少なく急峻な地形が多いことから、今後、捕獲コストが上昇することが想定される。
	改善点：引き続き、効率的・効果的な捕獲が実施できるよう、効果的な捕獲手法の検討に取り組む。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：有識者からの助言を受けながら、実施計画等に基づき適切に実施された。
	改善点：引き続き、夜間銃猟の導入も見据え、適切な実施体制の整備に取り組む。
【個体処分】	評価：埋設により適切に処分した。
	改善点：引き続き、適切に処分を行う。
【環境配慮】	評価：非鉛製銃弾を使用した。
	改善点：引き続き、非鉛製銃弾を使用する等、環境に配慮して捕獲作業を実施する。
【安全管理】	評価：安全管理計画書に基づき捕獲を実施し、人身事故やその他の事故は発生しなかった。
	改善点：引き続き、安全管理を徹底した上で捕獲作業を実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし。	

4. 全体評価

イノシシの捕獲数については、目標達成率は62%と目標を達成できなかったが、モニタリング調査の結果から、撮影頻度が高い地域を把握することができた。事業実施地域内では、依然としてイノシシの生息が確認されることから、慶良間諸島全域でのイノシシ根絶のためには、各島の生息状況や今年度の捕獲実績を踏まえ、捕獲の時期、手法及び体制等の見直しを行い、夜間銃猟も想定しつつ、さらに捕獲を強化していく必要があると考える。

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

特定鳥獣保護・管理計画の目標	慶良間諸島に生息するイノシシは外来種（ニホンイノシシ）であり、第二種特定鳥獣管理計画において、慶良間諸島全域からのイノシシ根絶を目標としている。
寄与状況の評価	専門的な捕獲技術者が従事する体制を構築し、計画的に事業を実施することで、生息数の減少に寄与していると考えられる。